

2027年2月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

株式会社ワイズテーブルコーポレーション
(証券コード： 2798東証スタンダード)



2026年10月26日開催

1. 2027年2月期 中間期 業績概要と今期の見通し

- ☐ 2027年2月期 中間期 売上高の状況
- ☐ 2027年2月期 中間期 業績概要（連結）
- ☐ 2027年2月期 通期見通し（連結）

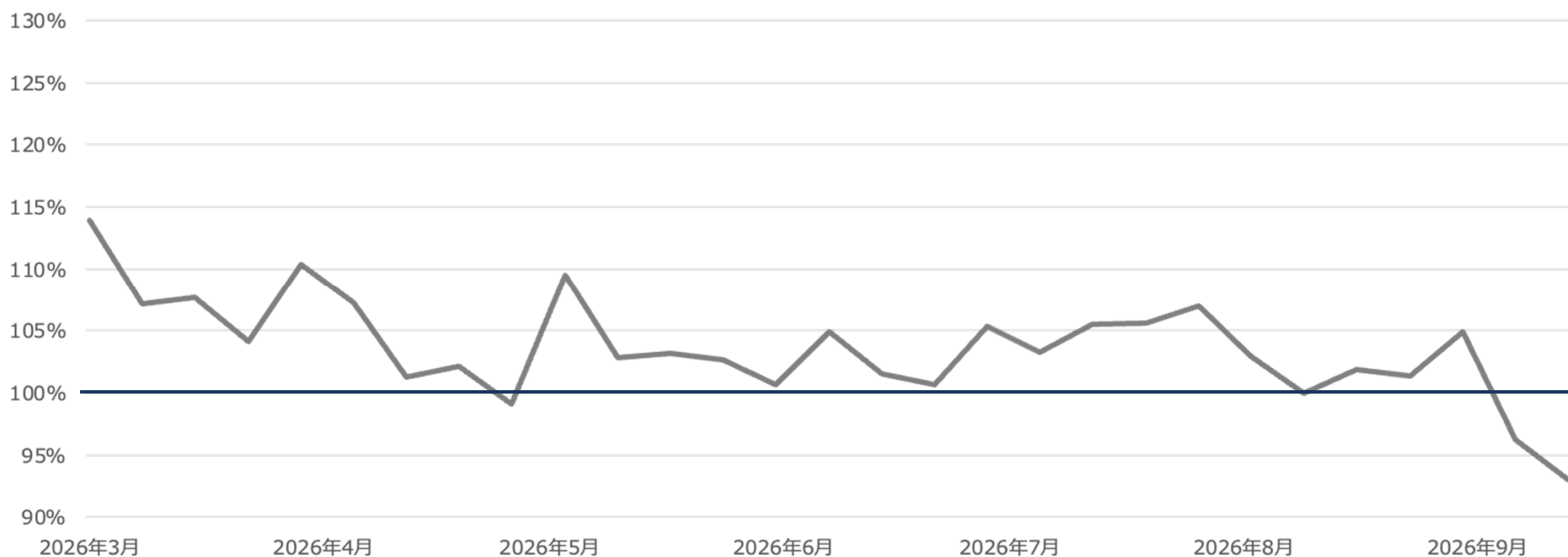
2. 当社グループの近況とトピックス

- ☐ 2027年2月期の取り組みと今後の取り組み
- ☐ CÉ LA VI TOKYO

2027年2月期 中間期 売上高の状況

- カジュアルレストラングループが好調に推移したことにより、前年超えの売上高を確保
- 2026年3月は季節需要及び観光需要に支えられ好調に推移。4月以降は中東情勢の影響、また6月以降は日本各地で台風や記録的な大雨、地震等の自然災害が相次いで発生し、XEXグループが苦戦
- 2027年2月期上期の既存店売上高前期比（月次ベース）：104%（XEX99%、カジュアル106%）

2026年3月から2026年9月の直営既存店売上高前期比（週次、同曜日比較）



既存店：開業後13か月以上経過した店舗を指す。株式会社山の上ホテル（現 株式会社てんぷら山の上）の店舗は含まない

2027年2月期 中間期 業績概要（連結損益計算書）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

【 連 結 】	2027年2月期 中間連結会計期間						2026年2月期 中間連結会計期間		
	当期実績		計画（注）		計画比		前期実績		前期比
		構成比		構成比				構成比	
売上高	7,069	100.0%	7,355	100.0%	96.1%		6,437	100.0%	109.8%
営業利益	157	2.2%	163	2.2%	96.5%		96	1.5%	163.6%
経常利益	168	2.4%	159	2.2%	105.6%		127	2.0%	132.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	382	5.4%	395	5.4%	96.8%		120	1.9%	318.1%
1株当たり 中間純利益	116.03円	—	119.89円	—	96.8%		36.47円	—	318.1%

（注）2026年7月15日付で発表した中間連結会計期間計画

■ 計画比：

【売上高】：計画を下回った

- 第1四半期は堅調に推移したものの、第2四半期は自然災害等の影響により法人需要や消費者マインドの低下がみられ、高級レストラン事業であるXEXグループの売上高が低調となり、中間連結会計期間では計画を下回った。

【営業利益】：計画を下回った

- 売上高が計画を下回ったことを主な要因として、営業利益は計画を下回った。

【親会社株主に帰属する中間純利益】：計画を上回った

- 株式会社山の上ホテル（現 株式会社てんぷら山の上）を連結の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益を計上。この結果、親会社株主に帰属する中間純利益は計画を上回った。

■ 前期比：売上および各段階損益は前期を上回った

- 前期に新規開店および業態変更を行った店舗が貢献したこと、第2四半期から株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたことにより、売上、営業利益および経常利益は前期を上回った。
- 経常利益の増益に加え、負ののれん発生益を特別利益として計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は前期を上回った。

2027年2月期 中間期 業績概要（連結貸借対照表）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	当中間連結 会計期間	前連結会計年度	増減	科目	当中間連結 会計期間	前連結会計年度	増減
現金及び預金	1,751	1,535	216	買掛金	614	490	123
売掛金	854	712	141	短期借入金（注）	216	179	37
原材料及び貯蔵品	188	199	▲11	未払金	737	680	56
その他	240	234	6	未払法人税等	2	4	▲1
流動資産合計	3,035	2,682	352	契約負債	91	74	16
有形固定資産	1,501	1,219	282	株主優待引当金	74	68	6
建物及び構築物（純額）	1,112	890	222	その他	300	265	35
その他（純額）	388	328	59	流動負債合計	2,037	1,763	273
無形固定資産	24	19	4	長期借入金	1,635	1,440	195
その他	24	19	4	資産除去債務	998	915	83
投資その他の資産	1,484	1,161	322	その他	107	80	26
投資有価証券	284	265	19	固定負債合計	2,741	2,435	305
長期貸付金	138	138	0	負債合計	4,778	4,198	579
敷金及び保証金	881	606	275	株主資本合計	1,265	882	382
その他	179	151	27	その他	1	0	0
固定資産合計	3,009	2,400	609	純資産合計	1,266	883	383
資産合計	6,045	5,082	962	負債純資産合計	6,045	5,082	962

売掛金の増加：売上高の増加

有形固定資産の増加：株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたこと、
新規出店・改装・維持更新工事実施等による

投資有価証券の増加：持分法適用会社が利益を計上したことによる

敷金及び保証金の増加：株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたことによる

短期・長期借入金の増加：新規借入実施による

未払金の増加：店舗設備の改装・維持更新工事実施による

資産除去債務の増加：株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたこと、
新規出店による

株主資本の増加：親会社株主に帰属する中間純利益の計上による

（注） 短期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含む

2027年2月期 中間期 業績概要（連結キャッシュ・フロー計算書）

区分	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	355	246
税金等調整前中間純利益	363	118
減価償却費	109	99
減損損失	－	8
負ののれん発生益	▲226	－
持分法による投資損益（▲は益）	▲2	▲9
売上債権の増減額（▲は増加）	▲70	▲146
棚卸資産の増減額（▲は増加）	16	5
仕入債務の増減額（▲は減少）	100	75
未払金の増減額（▲は減少）	29	55
その他	52	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲365	▲160
有形固定資産の取得による支出	▲230	▲142
貸付金の回収による収入	－	40
敷金及び保証金の差入による支出	▲161	▲28
その他	26	▲29
財務活動によるキャッシュ・フロー	226	▲55
短期借入金の増減額（▲は減少）	2	58
長期借入れによる収入	300	－
長期借入金の返済による支出	▲69	▲111
その他	▲6	▲2
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	216	30
現金及び現金同等物の期首残高	1,535	1,533
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,751	1,563

単位：百万円
（百万円未満切捨て）

（注）
主要項目のみ記載

・ 営業活動によるキャッシュ・フローと長期借入金の調達による収入を用いて新規出店・店舗の改修を実施

2027年2月期 通期見通し（連結）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	2027年2月期 通期計画 修正予想（注1）	2027年2月期 通期計画 前回予想（注2）	2027年2月期 通期計画 前回予想との差異	2026年2月期 通期実績	2026年2月期 通期実績との差異
売上高	14,649	15,446	94.8%	13,046	112.3%
営業利益	341	405	84.1%	249	136.9%
経常利益	385	459	83.8%	345	111.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	536	630	85.0%	205	261.2%

（注1）2026年10月15日付で発表した通期計画

（注2）2026年7月15日付で発表した通期計画

■ XEXグループ

- ・ 下期の既存店売上高は前期比102%で設定
- ・ 客単価引き上げ、コスト削減、生産性向上による原価率、人件費率の引き下げ

■ カジュアルレストラングループ

- ・ 下期の既存店売上高は前期比105%で設定
- ・ 客単価引き上げ、コスト削減、生産性向上による原価率、人件費率の引き下げ

■ その他

- ・ 下期の新規出店3店舗（直営店3店舗）を織り込み

1. 2027年2月期 中間期 業績概要と今期の見通し

- ☐ 2027年2月期 中間期 売上高の状況
- ☐ 2027年2月期 中間期 業績概要（連結）
- ☐ 2027年2月期 通期見通し（連結）

2. 当社グループの近況とトピックス

- ☐ 2027年2月期の取り組みと今後の取り組み
- ☐ CÉ LA VI TOKYO

課題・テーマ

高付加価値化

和食事業の強化

カジュアルイタリアン事業の展開

今期の取り組み

- 質の向上による値上げ施策
 - 既存店舗へのリニューアル投資の継続
 - 給与水準の向上や採用戦略の強化による、離職率の引き下げ、優秀な人材の確保
- インバウンド外国人富裕層の獲得
 - 高級ホテルコンシェルジュ、旅行代理店との提携強化
 - 訪日外国人向けのネットプロモーション強化（SNS、Google等）
- 日本料理、鉄板焼、鮨、焼鳥、とんかつなど和食業態の展開強化
 - 和食職人のチーム強化
 - M&Aや外部アドバイザーとの提携によるブランド拡充
- 成功モデルでの出店継続
 - 「ハレの日需要」のある立地への出店
 - ホテルとの共同出店
- 既存店の収益性向上
 - 値上げによるコスト構造の改善
 - デリバリー施策による売上増

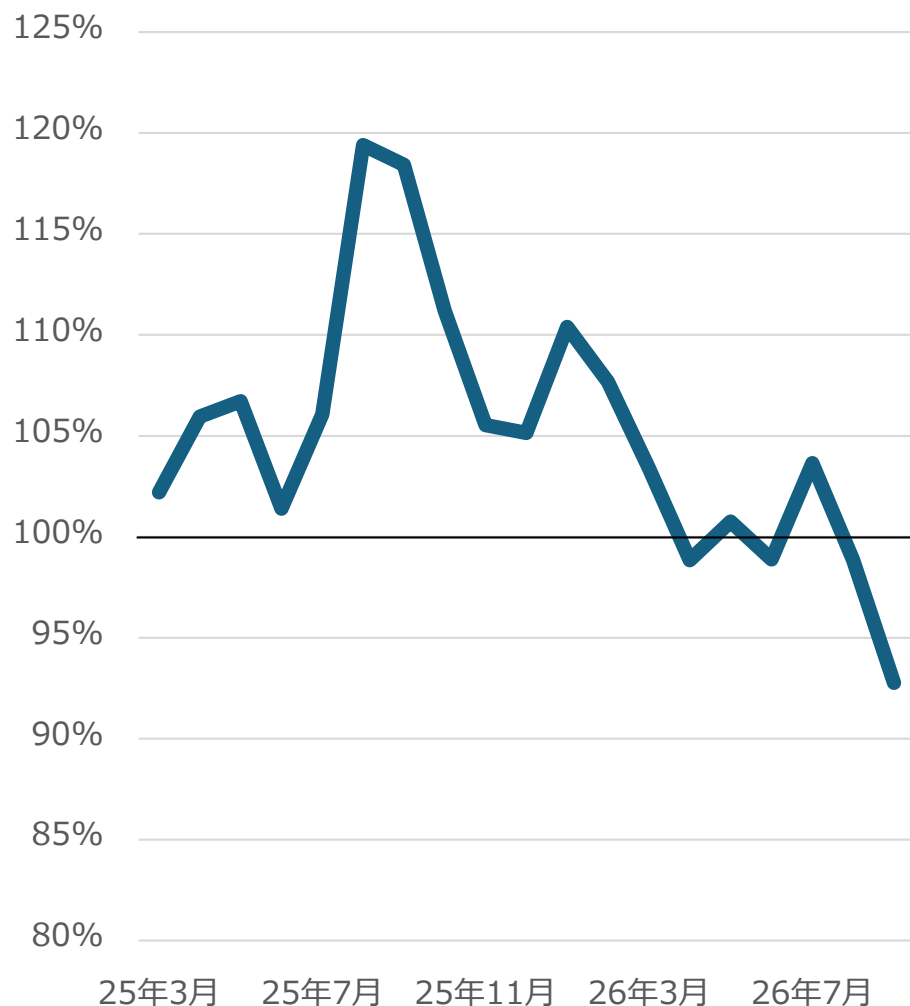
2027年2月期上期 各セグメント・業態における既存店の前期比

	売上高	客数	客単価
既存店合計	104%	102%	102%
XEXグループ	99%	98%	103%
ランチ	104%	99%	106%
ディナー	98%	96%	103%
カジュアルレストラングループ	106%	103%	102%
 イートイン	103%	101%	101%
ランチ	104%	102%	102%
ディナー	102%	101%	101%
 デリバリー	116%	115%	101%

- カジュアルレストラングループのデリバリー売上が好調
- XEXグループは客数が落ち込み苦戦

- XEXグループ既存店の売上高は、前年を大きく上回って推移してきたが、2026年4月以降失速

XEXグループ既存店売上高前年比



既存店：開業後13か月以上経過した店舗を指す。株式会社山の上ホテル（現 株式会社てんぷら山の上）の店舗は含まない

外的要因

- 国際情勢の悪化を受けたインバウンドの減少
- 台風、大雨、地震等の自然災害を受けた消費者マインドの低下
- 円安、金利上昇等を受けた、景気先行きに対する警戒感の高まり

内的要因

- 人材が希薄化して付加価値の向上が不十分となり、価格とのバランスが悪化
- 夏季は季節的にインバウンド、法人需要が落ち込むが、それを補填する個人需要が獲得できていない

- 基本となる料理、サービスの質的な見直し
- ベース給与アップ、外部からの幹部人材の招聘による人材の再拡充
- 機動的かつ柔軟な価格設定や販促の実施による個人需要の獲得

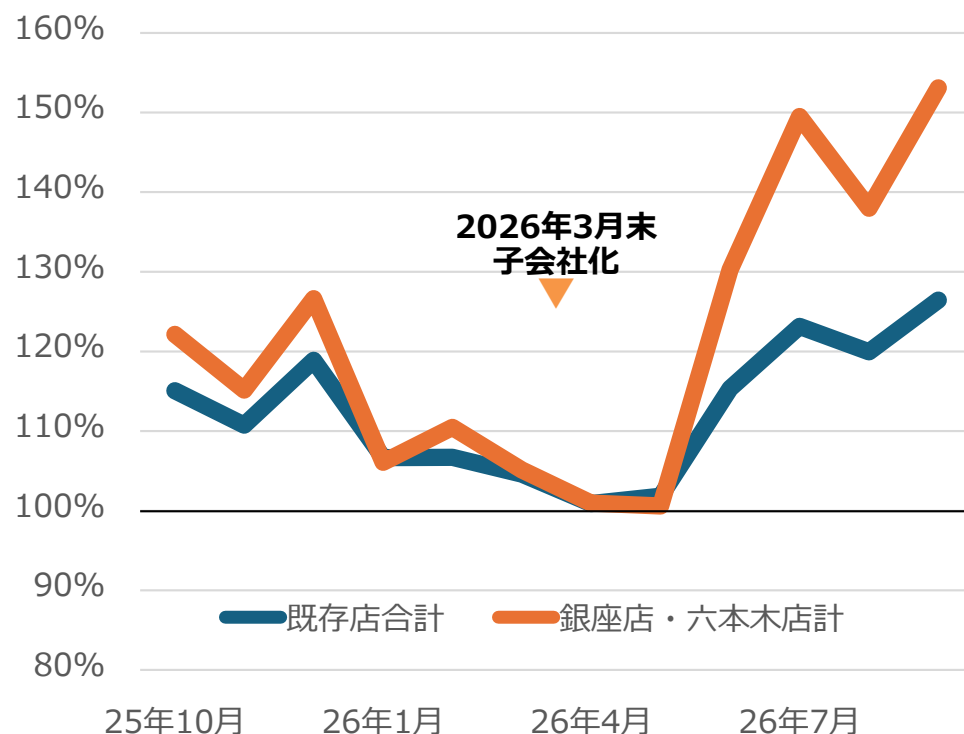


- 高付加価値で競合の少ないハイエンド市場が当社グループの主戦場
- 店舗展開型としてミドル市場を捉え、百貨店、駅ビル、大型SCなどへ出店
- 自社開発だけでなく、M&Aや事業提携により和食事業を強化

てんぷら山の上

- 2026年3月末、高級天ぷらブランド「てんぷら山の上」を有する株式会社山の上ホテル（現 株式会社てんぷら山の上）を子会社化
- 子会社化後、高級天ぷらレストランである銀座店・六本木店について販促施策を強化。インバウンドの追い風もあり、大幅な売上増を達成

株式会社てんぷら山の上
既存店売上高前年比



- 2026年3月末に子会社化した「てんぷら山の上」の売上は好調に推移
- コスト管理、生産性向上にも注力し、事業の収益力強化を進める

業態開発

- 既存事業として焼鳥、和食、鮎、そば、和食、鉄板焼を展開
- 新規業態としてとんかつ業態を開発（2021年10月）、M&Aにより天ぷら業態を拡大（2026年3月）
- 高級業態からアッパーミドルの価格帯を中心に展開し、大手チェーンとは差別化

国内展開

- 東京、大阪、京都など富裕層、インバウンド需要の大きいエリアで展開
- 都市部の大型SCや百貨店、優良エリアの路面店
- 多店舗展開により専門職人チームの強化
- 既存業態の強化のため、同業態のトップブランドとの提携も視野

海外展開

- 世界的な和食ブームにより今後の成長ポテンシャルは大きい
- 成長著しいアジアの主要都市やNYなどの世界的な都市への出店
- 各エリアにおける人材・食材などの飲食インフラ構築が課題
- 現地大手企業（不動産、飲食企業など）との提携も視野

2021年～2026年

2027年～

和食事業において、まずは国内で展開し、業態の強化、専門職人の拡充を行い、将来的には海外の主要都市に展開していく

ハレの日需要

The TRATTORIA
SALVATORE CAFE

The TRATTORIA
SALVATORE CAFE
BASEGATE横浜関内



- 開業日：2026年3月19日
- 席数：43席（+テラス34席）
- 平均月商：2,400万円
- デリバリー営業：なし
- 出店ポイント：高い集客力

ホテル内

Tavernetta
SALVATORE

Tavernetta Salvatore
新横浜



- 開業日：2026年6月1日
- 席数：45席（+テラス24席）
- 平均月商：1,400万円
- デリバリー営業：あり
- 出店ポイント：朝食売上の上乗せ

購買力のある住宅地

OSTERIA
SALVATORE

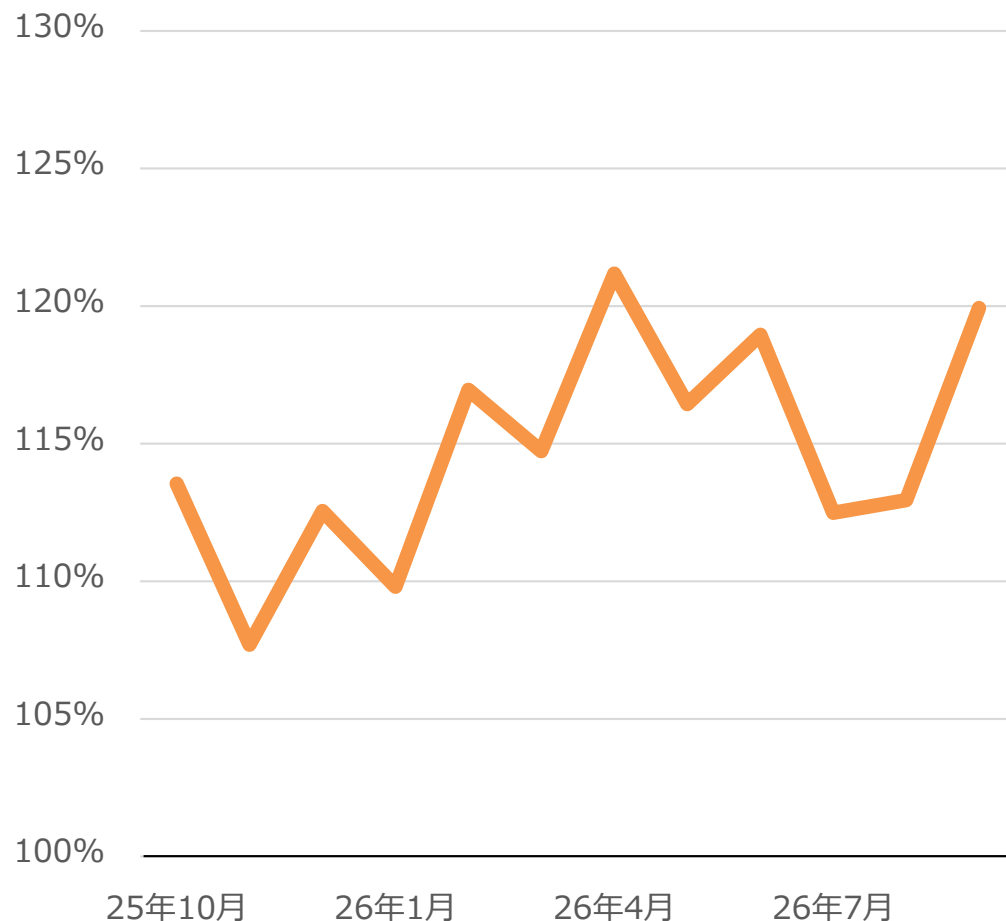
OSTERIA SALVATORE
阿佐ヶ谷



- 開業日：2026年11月1日（予定）
- 席数：61席
- 想定月商：1,600万円
- デリバリー営業：あり
- 出店ポイント：デリバリー売上

- カジュアルイタリアン事業において、これまでの出店実績から安定的な売上と収益性を見込むことができる立地を中心に新規出店を実施
- 既存モデルの展開に加え、中長期的な成長に向けて新たな立地・収益モデルの開発にも取り組む

デリバリー既存店売上高前年比



デリバリー売上好調の要因

- アプリの導入によるリピート率、単価向上
(アプリ経由率23%*)
- UBERなどのシェアデリバリーにおける
低価格化と広告強化
- デリバリー専門部門における配送員や広告の
適正化 (→待ち時間低減など)
- 燃料高、金利上昇などによる節約志向における
価格優位性

* 2026年9月の「Salvatore」ブランドデリバリー売上実績

引き続きデリバリー売上は前年を大きく上回り、会社全体の売上増に大きく寄与

白金店 大人2名利用のケース (単位：円)

	店内		デリバリー*1		テイクアウト*2	
	税抜	税込 (10%)	税抜	税込 (8%*3)	税抜	税込 (8%*3)
特製ベーコンのシーザーサラダ	1,280	1,408	1,000	1,080	800	864
マルゲリータ (Mサイズ)	2,300	2,530	2,220	2,397	1,776	1,918
フレッシュトマトとバジルのスパゲッティ (Rサイズ)	1,580	1,738	1,420	1,533	1,136	1,227
鶏もも肉のソテー ガーリックバターソース	1,780	1,958	1,620	1,749	1,296	1,400
ビール×2 (生ビールジョッキ/缶ビール350ml*4)	1,560	1,716	414	455	414	455
オレンジジュース*5×2	1,200	1,320	248	267	248	267
合計	9,700	10,670	6,922	7,481	5,670	6,131

※端数処理により税込の金額に誤差が生じる場合がある

*1：電話注文の場合

*2：当社ウェブサイト、アプリ経由の注文でクーポン利用の場合

*3：ビールは消費税率10%

*4：デリバリー・テイクアウトは小売350ml缶2本の利用を想定（1本あたり税抜207円とする）

*5：デリバリー・テイクアウトは小売果汁100%オレンジ450ml1本の利用を想定（1本あたり税抜248円とする）

30%OFF

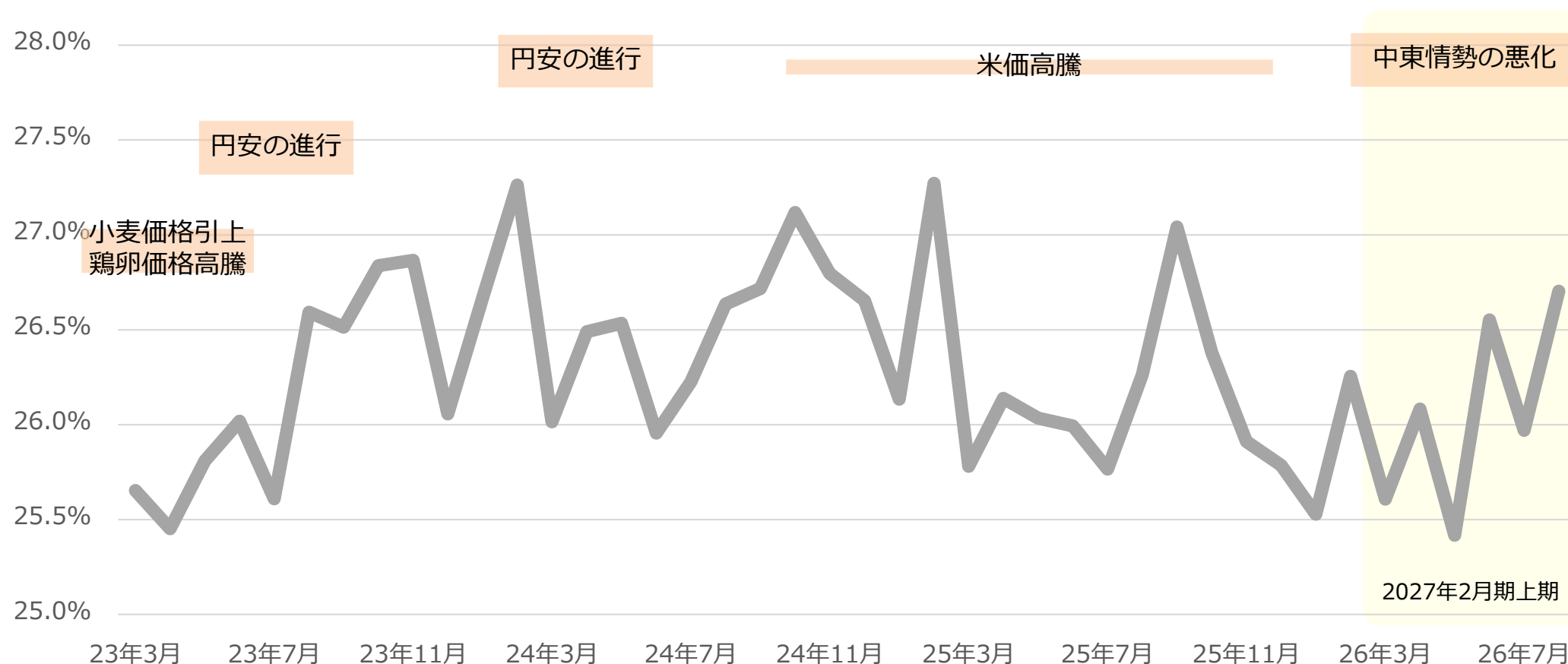
43%OFF

- 2027年4月「飲食料品消費税1%」の実施により、店内利用との価格差はさらに広がり、デリバリー・テイクアウトの需要増が見込まれる
- アプリでのテイクアウト受注開始を2026年8月より本格稼働し、来春での全国展開を目指す

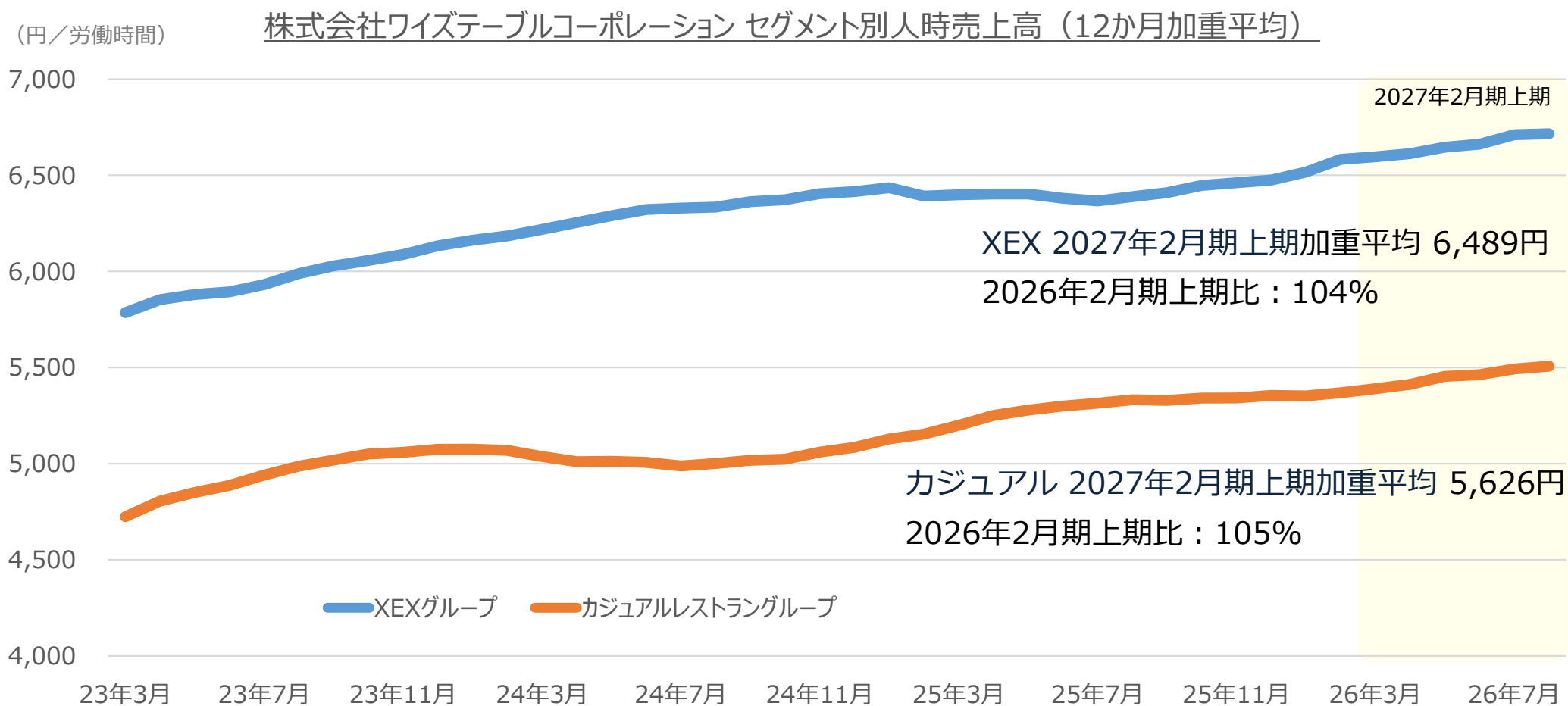
原価率の推移（直営店食材原価率）

- 2027年2月期上期の食材原価率は26.0%（株式会社ワイズテーブルコーポレーション店舗）
- 国際情勢、エネルギー価格高騰、円安の進行等により食材価格の高騰が進んでいるが、値上げ、付加価値向上、食材・資材の見直しやメニューミックスの工夫により抑制
- 今後も食材価格の更なる高騰が見込まれるが、引き続き食材・資材の見直しに取り組み、原価率の抑制を図る

株式会社ワイズテーブルコーポレーション直営店舗 食材原価率



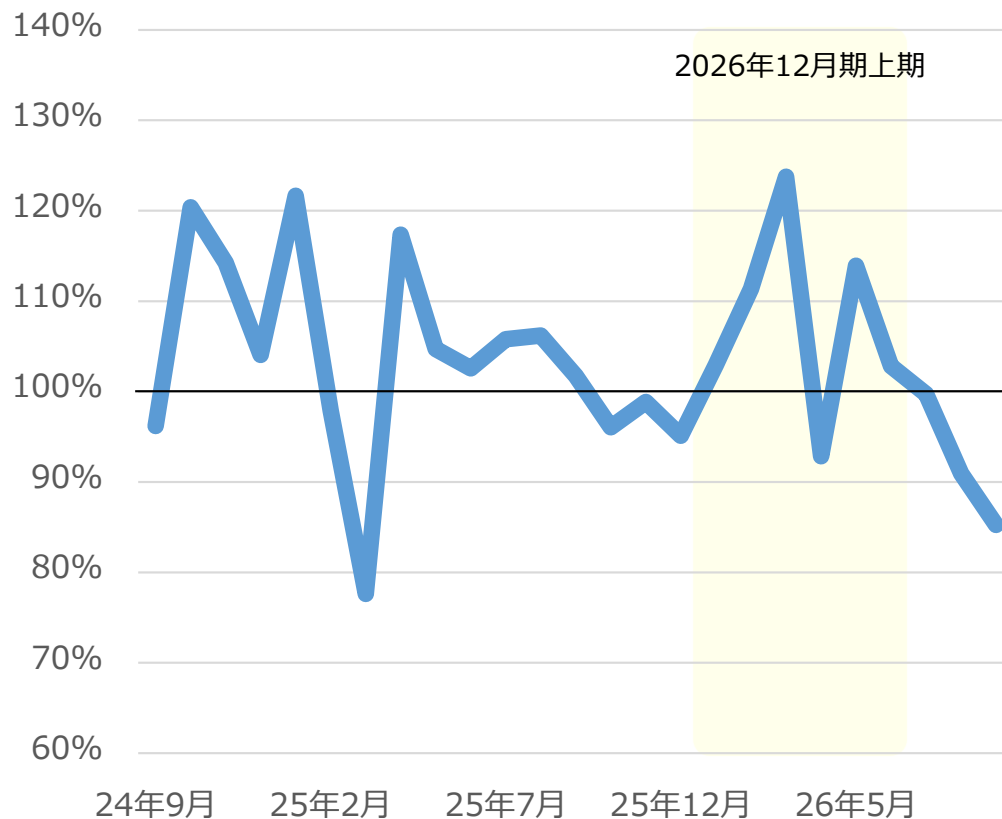
- 2027年2月期上期の人時売上高は、前年同期比で5%改善、平均時給は4%上昇
(株式会社ワイズテーブルコーポレーション店舗)
- 人手不足や賃金上昇が続く事業環境を踏まえ、今後も人材確保に向けた賃金水準の引き上げが必要と認識しており、生産性のさらなる向上とコスト管理の徹底に取り組む



人時売上高 = 売上高 ÷ 総労働時間

- 2026年12月期上期は、イベントの開催や企業パーティー等の貸切案件受注、一般営業強化により好調に推移
- 開業7年目を迎え、17階テラスを改装し、大型LEDスクリーンの導入や植栽の変更を実施。これまでに引き続き、世界的に有名なアーティストの誘致や大型イベントのアフターパーティーの開催など、話題性のある施策にも積極的に取り組み、ハコとしての魅力とブランド力の維持・強化を図っていく

CÉ LA VI TOKYO 売上高前年比



セグメント		主な事業内容	会社名	主な店舗名
XEX グループ	国内	高級レストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	XEX The Kitchen Salvatore Cuomo 名古屋 The Kitchen Salvatore Cuomo 京都 The Kitchen Salvatore Cuomo 三宮 毛利 Salvatore Cuomo atelier 森本 XEX ぎおん 刀
			株式会社てんぷら山の上	てんぷら山の上 レストラン ヒルトップ
カジュアル レストラン グループ	国内	カジュアルレストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	PIZZA SALVATORE CUOMO SALVATORE CUOMO & BAR PIZZA SALVATORE CUOMO & GRILL PASTA & PIZZA Salvatore Cuomo PRESTO Salvatore Cuomo 伊太利亜市場BAR こけこっこ とんかつ&焼鳥 An Salvatore Cuomo 市場 Paul Bassett The Kitchen Salvatore Cuomo 銀座 PIZZA & PASTA SALVATORE SALVATORE CUOMO & GRILL Tavernetta Salvatore PIZZERIA MANCINI TOKYO SALVATORE CUOMO Café OSTERIA SALVATORE
その他の 事業	国内	人材派遣事業（休眠中）	株式会社パートナーワイズ	—

本資料は情報提供を目的としており、株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料には当社の出店計画や業績見通しなどが含まれております。

将来の計画・予測に関しましては、現時点で入手可能な情報もとに当社が合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が作成したものでありますが、リスクや不確定要素を含んでおり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

問い合わせ先：経営企画グループ
TEL：03-5412-0065